

学生の確保の見通し等を記載した書類 目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 新設組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 |
| 2. 人材需要の社会的な動向等・・・・・・・・ | 2 |
| 3. 学生確保の見通し | |
| (1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果・・・・・・・・ | 3 |
| (2) 競合校の状況分析・・・・・・・・ | 5 |
| (3) 学生確保に関するアンケート調査・・・・・・・・ | 6 |
| (4) 人材需要に関するアンケート調査等・・・・・・・・ | 7 |
| 4. 新設組織の定員設定の理由・・・・・・・・ | 8 |

1. 新設組織の概要

| | |
|-------------------|--|
| 新設組織 | 長崎大学大学院グローバルリスク研究院 |
| 新設プログラム | グローバルリスクプログラム |
| 学位の名称 | 博士（学術） / Doctor of Philosophy |
| 入学定員 | 5 名 |
| 収容定員 | 15 名 |
| 修行年限 | 3 年 |
| 所在地（教育研究を行うキャンパス） | 長崎県長崎市文教町 1-14 長崎県長崎市坂本町 1 丁目 12-4 |
| 養成する人材像 | 新設するグローバルリスク研究院においては、原爆ヒバクの経験を有する長崎大学の歴史とこれまでの平和教育・核兵器廃絶研究において独自に継続的な取り組みや熱帯医学・感染症の卓越した実績を持つ長崎大学の強みを活かしつつ、人文社会科学的叡智を科学的アプローチとして統合し、核の使用リスクや地球環境破壊、パンデミックなど人類の存続に影響しうる地球規模のリスクについての学際的研究を推進し、国際社会へのさまざまな提言と共に次世代の研究者、政策立案能力のある専門家、国際社会におけるリーダーの育成を行う。 |
| 学位の分野 | 文学，法学，社会学・社会福祉学，経済学，医学 |

2. 人材需要の社会的な動向等

文部科学省は、科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 安全・安心科学技術及び社会連携委員会において、「リスクコミュニケーションの推進方策」を取りまとめている。今後のリスクコミュニケーションの推進方策として、「リスクコミュニケーションを行える人材の育成・確保が重要となる（p. 12）」とあり、具体的取組として、「大学や学協会は、リスクコミュニケーションを職能として身につけ社会の様々な場面で活躍する人材を育成すること（特に、リスクコミュニケーションにおいてステークホルダー間の連携や調整の役割を担える「媒介者」の育成）（p. 13）」が挙げられている。加えて、「今後、国、国の関係機関（独立行政法人科学技術振興機構等）、大学・研究機関、学協会等にはこれらの取組を実施していくことを強く期待したい。（p. 10）」と述べられている。

2008 年のリーマンショック後の金融システムリスクの増大は、グローバル資本市場のボラティリティの増大を招来し、経済分野に留まらずに政治、安全保障の分野にまで影響が連鎖し地球政治の在り方を変えようとしている。そうした中で、2011 年の東日本大震災による原発事故、2019 年に忽然と発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミック、2022 年のロシアによるウクライナ侵攻、2024 年のパレスチナ・ガザ問題等、様々なクライシスが 21 世紀以降に連続的に発生し地球大の複合リスクの様相を呈している。こうした国際社会

の激動と並行するように、人間・社会と自然の在り方の根本において動揺が激しさを増してきている。人類の生存に直接的な影響を与える地球環境破壊を含むこれらのグローバルな問題群を前にして、地球の健康と安全・平和が脅かされるのを未然に防ぐために、プラネタリーヘルスすなわち惑星的思考を基に、地球の健康と人間の尊厳を重ね合わせた惑星的思考によって、核戦争や国際紛争などによって既存の国際協調が瓦解するのを回避し、さらに新たなグローバルガバナンス構築のための取り組みが焦眉の課題になっている。

すなわち、人間の健康(グローバルヘルス(GH))と環境の健康(グローバルエコロジー(GE))に影響しうる破壊的(あるいは破滅的)グローバルリスク(GR)を明確化し、さらにリスク同士が相互に関連し、一つのリスクが他のリスクの引き金となりシステミックに連鎖する可能性(複合リスク化)を考慮した上で、対策や制度を設計する必要がある。

国連加盟国は2015年の「持続可能な開発サミット」新たな開発アジェンダとして「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」を採択した。このアジェンダでは、経済成長、社会的包摂、環境保護という、相互に関連する持続可能な開発の諸要素に焦点を置き2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な世界を構築するための17のゴール、169のターゲットを目標に掲げている。国境を越える、これらの目標に掲げられたリスクは学問領域、地理的範囲の双方において多次元的であり、経済、政治、社会・文化、医療の諸領域同士が交錯し超域的次元で複合化している。SDGsに代表される地球規模の問題群に対する新たな構想と目標設定の動向は、既存の学問各領域を学際的に統合した一元的な管理と支配がないままに、不可逆的な現象として進行していることに対する国際社会の危機感の表れと将来への警鐘でもある。

学問領域と国境を基準とする従来の地域概念を超えて連鎖する複合的リスクに対し、包括的かつ体系的な教育研究体制による多様な専門知及び職務経験に基づく実践知・応用知の双方を持つ専門職人材が求められ、21世紀におけるグローバルリスク領域のリーダーシップを発揮する人材を中長期的に育成する仕組みの構築が急務である。

3. 学生確保の見通し

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた取組として、以下を実施する。

① 学生への経済的支援について

現在プラネタリーヘルス学環(名称変更予定)で行っている支援と同様のものを実施する。

- ・研究院に在学する者に対し、経済的な負担を軽減し、修学及び研究に専念できるようにするため、研究奨励金を給付する。
- ・大学院生の研究発信を支援するため、学生が国内外の学会で研究発表をする際、それに要する費用の全部または一部を支給する。

② 教養教育におけるプラネタリーヘルス（グローバルリスク）関連授業の設置

2021 年度から教養教育において学部学生向けに、「プラネタリーヘルス入門」の授業科目を開講し、プラネタリーヘルスマインド（向き合う姿勢）を涵養するとともに、「学生それぞれの学部専門教育での学習がどのようにプラネタリーヘルスへと繋がるのか」といった学習意欲やキャリア観を醸成していた。2025 年度より新たに「プラネタリーヘルスⅠ」の授業科目を開講し、その中でグローバルリスクに関する内容を含む授業科目もあり、学生に将来のグローバルリスク研究院への進学モチベーションの向上に繋げる。

③ プラネタリーヘルス学環の説明会の実施

本プログラムに関心を持つ者を対象に、プログラムの概要などの説明会を開催する。本プログラムは先行して開設した DrPH プログラムとカリキュラムを含め密に連携していることから、毎年実施している DrPH プログラムの進学説明会と合同で開催、さらに本プログラム独自でも開催する。また、海外から説明会実施の希望があった場合は、個別にオンラインでの実施等により対応する。例年 DrPH プログラムの進学説明会を 5 月と 11 月に長崎と東京で対面とオンラインのハイブリッドで進学説明会を開催しているため、この説明会を活用する予定である。

④ 学術シンポジウムの開催

「グローバルリスク」全般及び本プログラムへの関心をより一層高め、その意義を広く学生や社会に周知するため、グローバルリスク研究センターが中心となり、学術シンポジウム・セミナー等を開催する。グローバルリスク研究センターが設置された 2024 年度は、「領土拡張の道具？ロシアの国籍付与を考える」（2024 年 6 月 20 日）、「人類を取り巻く地球環境~（プラネタリー）バウンダリーズ、ヘルス、リスク~」（2024 年 7 月 5 日）、「相互依存と平和：経済は政治を超えるのか？」（2024 年 9 月 9 日）、「核兵器不要の世界に向けて」（2024 年 9 月 20 日）、「長崎大学グローバルリスク研究センターキックオフシンポジウム」（2024 年 12 月 21 日）等のセミナーやシンポジウムを開催し、いずれも好評を博した。2025 年度も引き続き、セミナーやシンポジウムの開催を予定しているため、本プログラムの周知を図り、志願者の掘り起こしに繋げる。

⑤ HP 等による広報

グローバルリスク研究院の HP を有効に活用して、本プログラムの周知を行い、高校生から社会人まで恒常的なリクルート活動の推進を図る。

⑥ 長崎大学グローバルアルムナイネットワーク (NUGAN) による海外でのリクルート活動

本学においては、これまで多数の海外の優秀な学生を受入れ、輩出してきた。また、

本学において、卒業・修了後に母国に帰国した学生、研究者等で組織する「長崎大学グローバルアルムナイネットワーク（NUGAN）」を設置しており、現在、タイ支部、ベトナム支部、アフリカ支部、ライデン支部（オランダ）、台湾支部の5つの支部を結成している。このNUGANを通じて、本プログラムの情報を提供し、海外からの優秀な留学生のリクルートに繋げる。

⑦ 各種団体との連携

これまで多文化社会学研究科、医歯薬学総合研究科、核兵器廃絶研究センター、原爆後障害医療研究所、熱帯医学研究所、グローバルリスク研究センター等は、政府系機関、国際機関、企業等と協定を締結する等、連携を図ってきた。こうしたネットワークを活かして、各種団体に本プログラムの広報活動を実施し、社会人学生のリクルートや学生の就職先の確保に繋げる。

⑧ 各学部・研究科等での取組

各研究科等の大学院説明会などでも、本プログラムの概要を説明し、志願者の増加に繋げる。また、本学のプラネタリーヘルスに関する取り組みの一環として「グローバルリスク」の取り組みについても、学部学生・大学院学生に対する日常的な教育や指導の中で、本プログラムと既存の研究科との相違などを説明し、学生の本プログラムへの理解を深める。

（2）競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

地球規模の課題に社会学、経済学、工学、環境学、医学、データサイエンスなどのそれぞれの専門家が学問領域を超えて取り組み、俯瞰力と実行力を備えた実務家リーダーを養成する全学的組織として設置した「プラネタリーヘルス学環（学内組織）」内に知識体系の中の支柱の一つを担う、連携大学院として設置する「グローバルリスク研究院」は全国的にも類を見ない教育内容であることから厳密には競合校は存在しないが、一部教育目的として目指すものを同じくする、京都大学大学院地球環境学舎と筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムを目指す学生にとって、入学者としては類似の教育プログラムに映ると考えられるため、競合校として挙げられる。

京都大学大学院地球環境学舎においては、授与する学位は博士（地球環境学）と本研究院の博士（学術）と異なるが、地球規模の課題について俯瞰力と実行力を備えた実務家リーダーの養成を目的とする点に類似性がある。

筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムにおいては、現代社会に潜むリスクについて分析するという教育プログラムに類似性はあるが、工学的視点からと人文社会科学的視点からとでアプローチ方法が異

なり、また授与する学位も筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士後期課程は博士(工学)であり、本研究院の博士(学術)とは異なる。

本研究院は、原爆ヒバクの経験を有する本学の歴史とこれまでの平和教育・核兵器廃絶研究において独自に継続的な取り組みや熱帯医学・感染症の卓越した実績を持つ本学の強みを活かしつつ、人文社会科学的叡智を科学的アプローチに統合するという点で、上記に挙げた競合校の教育プログラムより本学の強みを活かした独自の教育プログラムとなっている。

(3) 学生確保に関するアンケート調査

本学の学部生及び大学院生(留学生含む。)並びにプラネタリーヘルスに関する取組みに関心がある企業の所属する社会人を対象に「長崎大学に設置する新しい大学院に関するアンケート」を実施した。本学調査対象の学部生及び修士課程・博士前期課程・博士後期課程・博士課程の大学院生 9, 110 名を対象とし、552 名(6.0%)の有効回答を得た。また、社会人から 64 名の有効回答を得ている。(資料1 ニーズ調査パンフレット, 資料2 ニーズ調査(学生・社会人対象)調査結果, 資料3 ニーズ調査(団体・企業対象)調査結果)

グローバルリスク研究院への印象についての設問では、「長崎大学らしい研究院である」、「時代にマッチした感じがする」、「実社会で役立ちそう」、「将来性がある」等の回答が多数あり、大学院への入学・進学を検討している学部生・大学院生及び社会人の本研究院への関心は高いと考えられる(資料2, 設問12)。

グローバルリスク研究院への進学に関する興味についての設問では、「現在、大学院への入学・進学又は学びなおしを検討している」と回答した 234 名中、157 名(67%)が、「非常に興味がある(進学を考えたい)」、「興味がある」あるいは「多少興味がある」と回答している(表1)。

(表1:「非常に興味がある(進学を考えたい)」、「興味がある」あるいは「多少興味がある」と回答した者の内訳)

| 区分 | | 非常に興味がある (進学を考えたい) | 興味がある あるいは 多少興味がある | 計 |
|------|--------|-----------------------|-----------------------|----|
| 学部生 | 1 年 | 5 | 33 | 38 |
| | 2 年 | 5 | 16 | 21 |
| | 3 年 | 3 | 15 | 18 |
| | 4 年 | 2 | 17 | 19 |
| 大学院生 | 修士 1 年 | 8 | 11 | 19 |
| | 修士 2 年 | 4 | 9 | 13 |
| | 博士 | 2 | 7 | 9 |
| 社会人 | | 9 | 11 | 20 |

表1のとおり、学部生・大学院生のすべての学年及び社会人において、一定数の入学・進学希望者がいることがわかる。本研究院は、実務経験者3年以上を求めている、「非常に興味がある（進学を考えたい）」と回答している学部生や実務経験を経していない大学院生については卒業・修了後に実務経験を経る必要があるため、開設後すぐの志願者数には繋がらないが、将来的には志願する可能性が高いと考える。また、「非常に興味がある（進学を考えたい）」と回答している修士課程の学生のうち、実務経験を経ている医歯薬学総合研究科災害・被ばく医療科学共同専攻の学生も含まれていることから、修士課程を修了後に本研究院へ進学する可能性が高いと考える。さらに、「非常に興味がある（進学を考えたい）」と回答した社会人9名の以外にも、「興味がある」あるいは「多少興味がある」と回答した社会人が11名いることから、将来的には志願する可能性があると考ええる。

なお、「非常に興味がある（進学を考えたい）」と回答している38名の学部生・大学院生の専門分野、社会人の職種については表2のとおりで、多岐にわたる分野、職種からの入学・進学希望者がいることがわかる。

（表2：「非常に興味がある（進学を考えたい）」と回答した者の専門分野及び職種の内訳）

| 分野 ／職種 | 学部生・大学院生 | | | | | 社会人 | | |
|-----------|----------|------|----|------|----|------|---------|-----|
| | 社会科学 | 人文科学 | 教育 | 医学保健 | 工学 | 民間企業 | 研究機関・大学 | 公務員 |
| 人数 | 8 | 4 | 1 | 12 | 4 | 5 | 3 | 1 |

本プログラムは、本学の強みを活かした他大学にない特徴あるプログラムであることから、今後、前述の「学生確保に向けた具体的な取組」を実施することで、本学からの志願者に限らず、国内外の他大学や社会人からの志願者も期待できる。

（4）人材需要に関するアンケート調査等

グローバルリスク研究院で養成する人材の需要を分析するため、プラネタリーヘルスに関する取組みに関心がある団体・企業及び本学と連携している国内外の各種団体・企業等を対象に「長崎大学に設置する新しい大学院に関するアンケート」を実施し、23社の有効回答を得た。

本研究院の採用意向についての設問では、19社（82.6%）が、「是非採用したい」「採用したい」あるいは「検討したい」と回答しており、非常に関心が高いことから、本プログラムで養成する人材に対する一定の社会的需要が見込まれる。また、採用にあたり、学生に求める能力についての設問では、「行動力」「協調性・コミュニケーション能力」「課題発見・解決能力」が上位を占め、本研究院の修了生は、このような需要に応えられる人材

であると考え。加えて、「国内だけでなく、国外に対しても高い視座を得られるのではないかと感じている」「国境を越えた紛争や環境問題が深刻化する中、それらに対処する重要な要素が盛り込まれていると感じた」「現代社会において重要な問題となっており、業界ごとの詳細なリスク分析が可能となればビジネスにおいて広く役立たせることができるのではないかと考える」との意見があったことから、社会的な人材需要を踏まえたプログラムであると言える。

また、本学のグローバルリスク研究センター、核兵器廃絶研究センター、原爆後障害医療研究所等と連携している国内外の各種団体・企業等から、「グローバルリスク研究院設置に関する要望書」が多数届いており、本プログラムの趣旨に賛同し、養成する人材に関して期待が大きいことが伺える。(資料4 要望書)

4. 新設組織の定員設定の理由

前述の社会的状況を踏まえると、核の使用リスクや地球環境破壊、パンデミックなど人類の存続に影響しうる地球規模の複合リスクに関して国際社会へのさまざまな提言と共に次世代の研究者を含む実務家、特に政策立案能力のある専門家、国際社会におけるリーダーの社会的要請は今後増加することが予想される。また、原爆ヒバクの克服と格闘してきた経験を有する長崎大学の歴史と、これまでの平和研究・核兵器廃絶研究及びその実践としての平和教育における独自の継続的な取り組みや、熱帯医学・感染症研究の分野で卓越した実績を持つ長崎大学の強みを活かしながら、人文社会科学的叡智を科学的アプローチに統合して設置する本研究院は、日本のみならず、世界の国際機関等からも設置を賛同されている。

このような社会的要請を踏まえつつ、本学の学部学生及び大学院学生（留学生含む。）並びにプラネタリーヘルスに関する取り組みに関心がある企業の所属する社会人に対して実施したアンケートの結果、「非常に興味がある（進学を考えたい）」と回答している者が38名おり、学部学生・大学院生のすべての学年及び社会人において、一定数の進学希望者がいること、連携協力研究科である多文化社会科学研究科へは、これまでも「核兵器廃絶」や「平和」など「リスク」に関連した研究テーマを持つ実務経験を経た社会人の志願者が毎年2名程度は存在することからも志願者が一定程度見込まれる。さらに、本学の医歯薬学総合研究科災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）に入学する留学生のうち、実務経験がある留学生は平均3.8名（2020～2024年平均）で、そのうち半数程度は、将来的に母国の国際機関で就職を希望している。このような留学生は、複合リスクを含めてより多角的に災害・被ばく医療の専門性を高めるために、本研究院へ入学する可能性が非常に高く、毎年2～3名程度は志願者が見込まれる。

また、本学のプラネタリーヘルスに関する取り組みに関心がある団体・企業及び本学と連携している国内外の各種団体・企業等を対象に実施したアンケートの結果、「是非採用したい」「採用したい」あるいは「検討したい」との回答が19社あり、さらに要望書も届いていることから、本研究院で育成する人材に対する一定の社会的需要が見込まれる。

上記の社会的要請及びデータを踏まえ、本研究院は、複合リスクを含むグローバルリスクに関して、様々な学問分野で構成される学際的なプログラムであることから、共修環境（教育・研究の質の担保）を整えることを考慮し、さらに、学生の多様性を確保するため、入学定員5名と設定した。

学生の確保の見通し等を記載した書類 別紙資料

| | | |
|------|-----------------------------|-----|
| 資料 1 | ニーズ調査パンフレット・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 |
| 資料 2 | ニーズ調査（学生・社会人対象）調査結果・・・・・・・・ | 1 1 |
| 資料 3 | ニーズ調査（団体・企業対象）調査結果・・・・・・・・ | 1 8 |
| 資料 4 | 要望書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 8 |

Challenge to Planetary health

※ Planetary health
(プラネタリーヘルス)

SDGs がゴールと定める2030年以降もSDGsによって得られた成果とシステムを維持・発展させ、地球の健康（プラネタリーヘルス）を支えるための答えを探索する“SDGsの一步先”を見据えた取組みです。

長崎大学は、人類と地球の抱える多様で相互に関連する問題群の解決に向けて、学際的にその知を結集・創造し、国内外の諸機関等との連携をはかりつつ、**プラネタリーヘルスの実現に貢献する世界的“プラネタリーヘルス”教育研究拠点**を目指します。

世界的“プラネタリーヘルス”教育研究拠点の形成のための3つのキーワード

✓ グローバルヘルス ✓ グローバルリスク ✓ グローバルエコロジー

地球上では、

- ✓ 感染症のパンデミックやワクチン開発などの問題
- ✓ 核拡散、放射線災害、国際紛争、平和、貧困と格差などの問題
- ✓ 海洋汚染・資源の枯渇、再生可能エネルギー、気候変動、大規模災害などの問題

が起っています。

長崎大学は、長年にわたる熱帯医学・感染症・放射線医療科学分野における卓越した実績を誇り、先端創薬・総合海洋研究・核兵器廃絶研究等を推進してきました。

これらを基盤に、地球上に起こる様々な問題を解決し、人と地球環境の健康（プラネタリーヘルス）の実現に貢献するために、既存の学問の枠組みを超え、多様な教育研究分野が融合し、知の連鎖を誘発する“新しい知の創出”を目指します。

プラネタリーヘルス実現に向けた教育の展開

① Doctor of Public Healthプログラム

- 令和4年度開設
- 定員5名

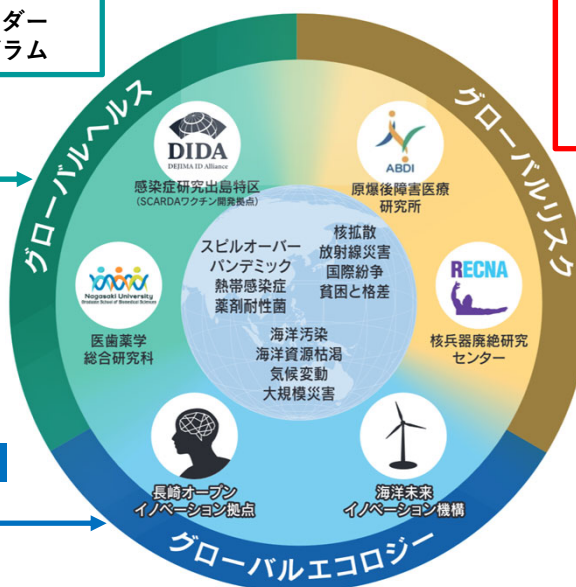
公衆衛生に変革をもたらすリーダーを育成する高度専門教育プログラム

② グローバルリスクプログラム (構想中)

- 令和8年10月開設予定
- 定員5名

核の使用リスクや地球環境破壊、パンデミックなど人類の存続に影響しうる地球規模のリスクについての学際的研究を推進し、政策立案能力のある専門家、国際社会におけるリーダーの育成を行う教育プログラム

③ グローバルエコロジー関連プログラム (予定)



令和6年6月
グローバルリスク研究センター設置

長崎大学は、教育の中核組織として「プラネタリーヘルス学環」（研究科等関係課程）を令和4年度に設置しました。この学環を本学の教育改革の原動力として位置付け、第1のプログラムとして、世界的グローバルヘルス拠点の強みを活かした学位プログラム（Doctor of Public Healthプログラム）を開設しました。

今後、この教育の中核組織「プラネタリーヘルス学環」において、本学の強み・個性を活かした第2の横断型学位プログラムとして、令和8年10月に「**グローバルリスクプログラム**」を構築する予定です。

○ 設置の趣旨

21世紀を迎えた私たちの地球は、気候変動、環境汚染、感染症、放射線被害、核問題、核使用リスク、人口問題、食料問題、格差、ジェンダー、宗教や文化の対立等多くの地球規模課題を抱えています。具体的には、2011年の東日本大震災による原発事故、2019年の新型コロナウイルス感染症のパンデミック、2022年のロシアによるウクライナ侵攻等、世界中では様々なクライシスが起こっています。

人類の生存に直接的な影響を与える地球環境破壊などのグローバルな問題群を前にして、地球の健康(プラネタリーヘルス)が脅かされるのを未然に防ぐには、核戦争や国際紛争などによる地球環境の破壊や国際協調・ガバナンスの崩壊を回避しなければなりません。

そのためには、人間の健康及び環境の健康に影響しうる破壊的(あるいは破滅的)グローバルリスクを明確化し、さらにリスク同士が相互に関連し、一つのリスクが他のリスクの引き金となり連鎖する危険(複合リスク化)を考慮した上で、対策や制度を設計する必要があります。

そこで、原爆ヒバクの経験を有する長崎大学の歴史と、これまでの平和教育・核兵器廃絶研究における独自の継続的な取り組みや熱帯医学・感染症の卓越した実績を持つ長崎大学の強みを活かしつつ、人文社会科学的叡智を科学的アプローチに統合し、核の使用リスクや地球環境破壊、パンデミックなど人類の存続に影響しうる地球規模のリスクについての学際的研究を推進し、政策立案能力のある専門家、国際社会におけるリーダーの育成を行う教育プログラムを設置します。

○ 基本情報 (予定)

※ 設置計画は予定であり、内容に変更があり得ます。

| | |
|--------|--|
| 課程 | 博士後期課程 (3年間) |
| 組織名 | グローバルリスクプログラム研究院 (研究科等連係課程) |
| プログラム名 | グローバルリスクプログラム |
| 学位 | 博士 (学術) |
| 開設時期 | 令和8年10月 |
| 使用言語 | 英語による教育 |
| 入口 | 修士号取得者で、3年以上の実務経験がある者又はそれらと同等の能力があると大学が判断した者 |
| カリキュラム | 1年次：座学を中心に公共政策・生態学的危機・地政学的課題について理論的な理解を深め、政策の立案や分析などに用いられる統合的な手法について学ぶ。 2年次：前半は理論解析、政策分析や提言に必要なスキルを修得、さまざまな事例解析の経験を積み、その上で研究計画を作成し、博士論文にかかわる研究を開始する。 3年次：研究計画に沿ってフィールド実習を含む研究を継続し、博士論文 (政策提言) を作成する。 社会人大学院生の学修機会の確保として、オンライン教育も提供する予定。 |
| 出口 | 国際機関、公官庁 (厚労省、外務省等) における政策担当、企業の高度専門職員 等 |

Challenge to Planetary Health

Planetary Health

This is an initiative that goes “one step beyond the SDGs,” seeking answers to bolster Planetary Health by maintaining and building upon the results achieved and systems put into place by the Sustainable Development Goals even after their achievement goal of 2030.

Nagasaki University is committed to the creation of a world-class **center for education and research that contributes to the realization of planetary health**. We shall bring together and create knowledge from various disciplines to solve the diverse and interconnected problems facing humankind and the Earth, while collaborating with domestic and international institutions and organizations.

The three key words for the formation of a world-class center for planetary health education and research:

✓ **Global Health**

✓ **Global Risk**

✓ **Global Ecology**

We face the following global issues:

- ✓ infectious disease pandemics and vaccine development
- ✓ nuclear proliferation, radiation disasters, international conflicts, peacebuilding, poverty and inequality
- ✓ marine pollution and resource depletion, renewable energy development, climate change, and large-scale disasters

Nagasaki University has a long history of excellence in the fields of tropical medicine, infectious diseases, and radiation medicine and has promoted advances in the research of cutting-edge medicine, integrated marine research, and nuclear weapons abolition research.

Considering the above, Nagasaki University has set a mission to create new knowledge systems that go beyond existing academic frameworks, incorporate various education and research fields, and lead to a ripple effect of knowledge creation in order to solve the planet's various issues, and contribute to the health of humanity and the world, or “Planetary Health.”

Planetary Health Education

(1) Doctor of Public Health Program

- Established in 2022
- Capacity: 5 persons

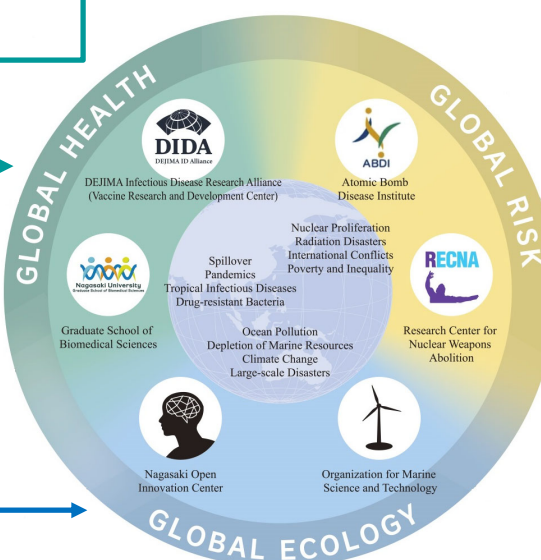
Program that fosters leaders who will revolutionize public health.

(2) Global Risk Program (in concept)

- Scheduled to begin October 2026
- Capacity: 5 persons

Educational program to promote interdisciplinary research on global risks that could affect the survival of humanity, such as the risk of nuclear weapons use, global environmental destruction, and pandemics, and to develop experts with policy-making skills and leaders in the international community.

(3) Global Ecology-related programs (tentative)



Established in June 2024
Research Center for Global Risk

Nagasaki University established the “Interfaculty Initiative in Planetary Health” (an interdisciplinary program) in 2022 as a core educational organization. This interfaculty initiative was set to be a driving force for educational reform at our University and for the first program, the Doctor of Public Health degree program was established to utilize the strengths of our world-class global health center.

The **Global Risk Program** is scheduled to be established in October 2026 within the “Interfaculty Initiative in Planetary Health,” as a second cross-disciplinary degree program that takes advantage of the strengths and unique facets of our university.



○ Purpose of Establishment

Our planet faces many global challenges in the 21st century: climate change, environmental pollution, infectious diseases, radiation diseases, nuclear issues, risks of nuclear weapons use, population issues, food security issues, disparities, gender, and religious and cultural conflicts. More specifically, the world has faced various crises, such as the nuclear disaster caused by the Great East Japan Earthquake in 2011, the COVID-19 pandemic in 2019, and the Russian invasion of Ukraine in 2022.

In the face of global environmental destruction and other global problems that have a direct impact on human survival, we must avoid the destruction of the environment and the collapse of international cooperation and governance that may occur as a result of international conflict and nuclear war to prevent the emergence of threats to Planetary Health.

To this end, it is necessary to identify destructive or even catastrophic global risks that can affect human and environmental health, and to design countermeasures/systems that take into account the interconnectedness of risks and the danger that one risk can trigger another, inducing a chain reaction of risk(or compound risk).

In addition to Nagasaki University's history of being subjected to the atomic bombing, and its unique, continuous efforts in peace education and nuclear weapons abolition research, it also possesses achievements in tropical medicine and infectious diseases. Using this history and experience, we will integrate knowledge from the humanities and social sciences into scientific approaches to promote interdisciplinary research on global risks that can affect the survival of humanity (risks including nuclear weapon usage, destruction of the global environment, pandemics, etc.), and establish an educational program to foster experts with the ability to formulate policies, and cultivate individuals who can be leaders in the international community.

Basic information (tentative)

*This plan is tentative and subject to change.

| | |
|---------------------|--|
| Course | Doctoral Program (3 years) |
| Organization Name | Interfaculty Graduate School of Global Risk (Interdisciplinary Graduate Program) |
| Program Name | Global Risk Program |
| (University) Degree | Doctor of Philosophy |
| Opening Date | October 2026 |
| Language Used | Education provided in English |
| Entrance | Master's degree holders with at least three years of work experience or those judged by the university to have equivalent ability. |
| Curriculum | <p>First Year: Improve theoretical understanding of public policy, ecological crises, and geopolitical issues, mainly through classroom lectures, and learn about the development of integrated approaches used in policy making and analysis.</p> <p>Second Year: In the first half, students will learn the skills necessary for theoretical analysis, policy analysis and advocacy, then gain experience in analyzing various case studies, create a research plan and start research for their doctoral theses.</p> <p>Third Year: Students will continue conducting research and field practice according to their research plan to write their doctoral theses (policy recommendations).</p> <p>Online education methods will be available to provide study opportunities for working graduate students.</p> |
| Exit Opportunities | Policy formulation management in international organizations and government agencies (Ministry of Health, Labor and Welfare, Ministry of Foreign Affairs, etc.), becoming a highly specialized employee in a company, and other roles. |

ニーズ調査（学生・社会人）

長崎大学では、令和8年10月にグローバルリスクに関する政策立案能力のある専門家、国際社会におけるリーダーの育成に資する教育プログラムを開設することとしております。ついては、当該プログラムの構築にあたり、学生、教育関係者及び一般のみなさまに関心度及び人材育成への期待・要望等についてアンケートを実施します。お忙しいところ申し訳ございませんが、以下URLに掲載の説明文を一読の上、アンケートにご協力ください。

【プログラムの設置の趣旨や概要について】https://www.planetaryhealth.nagasaki-u.ac.jp/iiph_wp/wp-content/uploads/2024/11/5a9ac7041a5dbec4a514956312c5defc.pdf

* 必須

1. あなたの身分をお答えください。

*

☐ 学生

☐ 社会人

2. 学年をお答えください。【年次】*

☐ 学部1年生

☐ 学部2年生

☐ 学部3年生

☐ 学部4年生

☐ 修士・博士前期課程1年生

☐ 修士・博士前期課程2年生

☐ 博士後期課程1年生・博士課程1年生

☐ 博士後期課程2年生・博士課程2年生

☐ 博士後期課程3年生・博士課程3年生

☐ 博士課程4年生

3. あなたの専攻分野をお答えください。【専攻】*

- ☐ 人文学（文学，語学，史学，哲学，心理学）
- ☐ 社会科学（法学，政治学，国際関係，商学，経済学，社会学，社会心理学）
- ☐ 教育（教育学，教員養成）
- ☐ 理学（数学，物理学，化学，生物学，地学）
- ☐ 工学（機械工学，電気通信工学，土木建築学，応用化学）
- ☐ 農学（農学，獣医学，畜産学，水産学等）
- ☐ 医学・保健（医学，歯学，薬学，看護学）
- ☐ その他

4. あなたの職種をお答えください。*

- ☐ 研究機関・大学
- ☐ 政府機関
- ☐ 国際機関・N G O等
- ☐ 民間企業
- ☐ その他

5. あなたの職業経験年数をお答えください。*

- ☐ 3年未満
- ☐ 3年以上5年未満
- ☐ 5年以上10年未満
- ☐ 10年以上

6. 気候変動、環境汚染、感染症、放射線被害、核問題、人口問題、食料問題、格差、ジェンダー、宗教や文化の対立等多くの地球規模で解決が必要な問題に対して関心がありますか。*

- ☐ ある
- ☐ 多少関心がある
- ☐ ない

7. 現在、大学院への入学、進学又は学びなおしを検討していますか。*

- ☐ 修士・博士前期課程で検討している
- ☐ 博士・博士後期課程で検討している
- ☐ 検討していない

8. 大学院への入学、進学又は学びなおしの理由をお答えください。*

- ☐ より高度な知識を身に付けたいから
- ☐ 希望する就職先において必要・有利だから
- ☐ 研究に興味があるから
- ☐ その他

9. 冒頭でご案内した、グローバルリスク研究院博士後期課程が設置された場合、同研究院への進学に興味がありますか。*

- ☐ 非常に興味がある（進学を考えたい）
- ☐ 興味がある
- ☐ 多少興味がある
- ☐ 興味がない

10. 本研究院博士後期課程に興味がある理由をお答えください。*

- ☐ 本研究院博士後期課程が養成する人材像に興味があるから
- ☐ 博士の学位の取得を目指しているから
- ☐ 将来働きたい分野に役立ちそうだから
- ☐ 高度に専門的な研究ができそうだから
- ☐ 新しい学際的な研究ができそうだから
- ☐ 多数の学外連携機関を活用できそうだから
- ☐ その他

11. 本研究院博士後期課程で博士の学位を取得した場合、どんなところで働きたいですか？ *

- ☐ 研究機関・大学
- ☐ 政府機関
- ☐ 国際機関・N G O等
- ☐ 民間企業
- ☐ その他

12. 本研究科博士後期課程について、どのような印象を受けられましたか。*

- ☐ 実社会で役立ちそう
- ☐ 将来性がある
- ☐ 時代にマッチした感じがする
- ☐ 長崎大学らしい研究院である
- ☐ その他

13. 本研究院博士後期課程について、ご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせください。

14. 長崎大学にご意見、ご要望がありましたら、お聞かせください。例：〇〇に関する講義やセミナーを開催してほしい。〇〇のような人材を育成してほしい。〇〇の研究を推進してほしい 等

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

2025 年 1 月 30 日

「グローバルリスク研究院」大学生・大学院生及び社会人ニーズ調査結果

(入口のニーズ調査)

■ 調査の概要

1) 調査（集計）の対象

- ・長崎大学の学部学生 7,413 名、大学院学生 1,697 名（留学生含む）
- ・プラネタリーヘルスに関する取組みに関心がある企業の所属する社会人

2) 調査の方法

上記対象者に、ウェブ上で説明資料の提示を行った上で、アンケートへの回答を依頼した。またアンケートはウェブ上で実施した。

3) 回答数

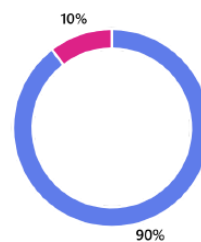
616 名

4) 調査期間

令和 6 年 11 月 26 日（火）～令和 6 年 12 月 31 日（火）

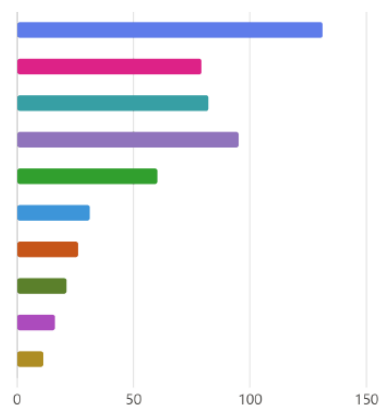
1. あなたの身分をお答えください。

| | |
|-------|-----|
| ● 学生 | 552 |
| ● 社会人 | 64 |



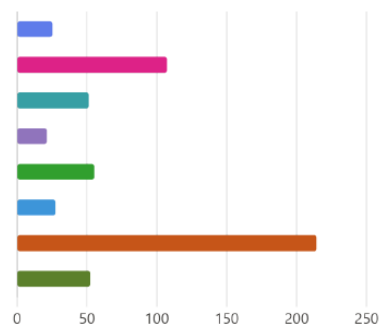
2. 学年をお答えください。【年次】

| | |
|---------------------|-----|
| ● 学部1年生 | 131 |
| ● 学部2年生 | 79 |
| ● 学部3年生 | 82 |
| ● 学部4年生 | 95 |
| ● 修士・博士前期課程1年生 | 60 |
| ● 修士・博士前期課程2年生 | 31 |
| ● 博士後期課程1年生・博士課程1年生 | 26 |
| ● 博士後期課程2年生・博士課程2年生 | 21 |
| ● 博士後期課程3年生・博士課程3年生 | 16 |
| ● 博士課程4年生 | 11 |



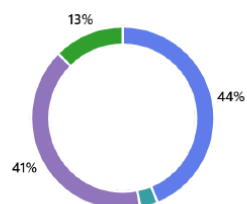
3. あなたの専攻分野をお答えください。【専攻】

| | |
|--------------------------------------|-----|
| ● 人文学（文学，語学，史学，哲学，心理学） | 25 |
| ● 社会科学（法学，政治学，国際関係，商学，経済学，社会学，社会心理学） | 107 |
| ● 教育（教育学，教員養成） | 51 |
| ● 理学（数学，物理学，化学，生物学，地学） | 21 |
| ● 工学（機械工学，電気通信工学，土木建築学，応用化学） | 55 |
| ● 農学（農学，獣医学，畜産学，水産学等） | 27 |
| ● 医学・保健（医学，歯学，薬学，看護学） | 214 |
| ● その他 | 52 |



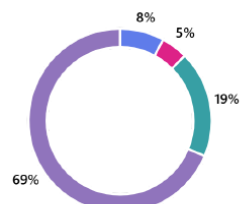
4. あなたの職種をお答えください。

| | |
|----------------|----|
| ● 研究機関・大学 | 28 |
| ● 政府機関 | 0 |
| ● 国際機関・N G O 等 | 2 |
| ● 民間企業 | 26 |
| ● その他 | 8 |



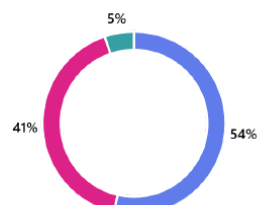
5. あなたの職業経験年数をお答えください。

| | |
|-------------|----|
| ● 3年未満 | 5 |
| ● 3年以上5年未満 | 3 |
| ● 5年以上10年未満 | 12 |
| ● 10年以上 | 44 |



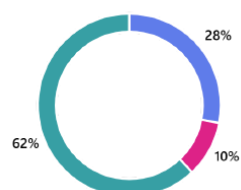
6. 気候変動、環境汚染、感染症、放射線被害、核問題、人口問題、食料問題、格差、ジェンダー、宗教や文化の対立等多くの地球規模で解決が必要な問題に対して関心がありますか。

| | |
|-----------|-----|
| ● ある | 330 |
| ● 多少関心がある | 254 |
| ● ない | 32 |



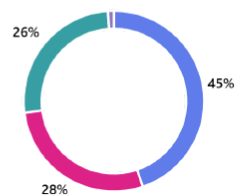
7. 現在、大学院への入学、進学又は学びなおしを検討していますか。

| | |
|--------------------|-----|
| ● 修士・博士前期課程で検討している | 173 |
| ● 博士・博士後期課程で検討している | 61 |
| ● 検討していない | 382 |



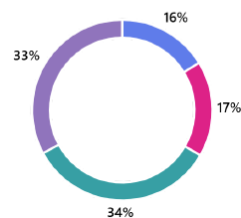
8. 大学院への入学、進学又は学びなおしの理由をお答えください。

| | |
|-----------------------|-----|
| ● より高度な知識を身に付けたいから | 169 |
| ● 希望する就職先において必要・有利だから | 106 |
| ● 研究に興味があるから | 98 |
| ● その他 | 4 |



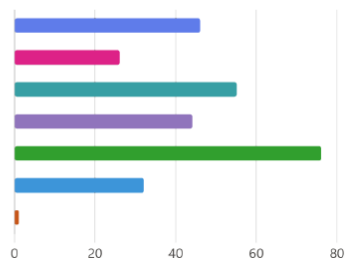
9. 冒頭でご案内した、グローバルリスク研究院博士後期課程が設置された場合、同研究院への進学に興味がありますか。

| | |
|---------------------|----|
| ● 非常に興味がある（進学を考えたい） | 38 |
| ● 興味がある | 40 |
| ● 多少興味がある | 79 |
| ● 興味がない | 77 |



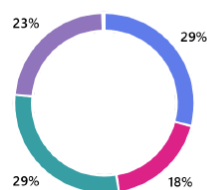
10. 本研究院博士後期課程に興味がある理由をお答えください。

| | |
|------------------------------|----|
| ● 本研究院博士後期課程が養成する人材像に興味があるから | 46 |
| ● 博士の学位の取得を目指しているから | 26 |
| ● 将来働きたい分野に役立ちそうだから | 55 |
| ● 高度に専門的な研究ができそうだから | 44 |
| ● 新しい学際的な研究ができそうだから | 76 |
| ● 多数の学外連携機関を活用できそうだから | 32 |
| ● その他 | 1 |



11. 本研究院博士後期課程で博士の学位を取得した場合、どんなところで働きたいですか？

| | |
|----------------|----|
| ● 研究機関・大学 | 78 |
| ● 政府機関 | 49 |
| ● 国際機関・N G O 等 | 78 |
| ● 民間企業 | 62 |
| ● その他 | 1 |



12. 本研究科博士後期課程について、どのような印象を受けられましたか。



13. 本研究院博士後期課程について、ご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせください。

53
応答

最新の回答

“公共善エコノミーの考え方を是非取り入れて、包括的な視野を持つ政策立案能力を持った... ”
...

※関連する回答のみ抜粋

| |
|---|
| 大変、魅力があると感じました。 |
| For me, it has the potential to help me develop skills in how research is conducted at a higher level. |
| Maybe consider adding Computer Skills as a subject? Science is evolving day by day so sometimes the skills we have acquired are obsolete. |
| I wish we have several collaborating institutions and organizations from Africa. From my experience Africa remains the frontier where investment in development is most impactful. An afro-centric collaborative experience focused on capacity development will have great effect in global stability in the future, considering the population size and demography. |
| The doctoral program has the potential to fill the political weakness of translational science, i.e., all translational science that seeks broad solutions are inherently political solutions. This doctoral program must bring in a strong political science base for its graduates to be effective in the “real world.” |
| グローバルリスクに関する政策立案能力のある専門家、国際社会におけるリーダーの育成に資する教育プログラムを開設に向けて検討しているとのことだか、非常に興味のある分野である。 |
| 新たな学びができそうでとても良いと思った。 |
| I hope the course will provide opportunities not only to advance individual research but also to contribute to the program’s broader objectives. This could include multisectoral collaborative activities and opportunities to engage with diverse stakeholders, further enhancing theoretical knowledge and practical understanding. |
| 理論的な知識が学べる時間があり、長崎大学が重視しているプラネタリーヘルスについて体系的になっていて良いと思う。実際に出口の確保はとても大事であるため、大学院が手厚くサポートして欲しい。 |

I am currently a student in the Interfaculty Initiative in Planetary Health DrPH program, and I must say that despite being a relatively new initiative (as I am part of the third batch), it is remarkably well-organized and doesn't feel like a pilot program. However, I believe one way to strengthen the program further is by fostering collaborations with various stakeholders and organizations during the DrPH project phase. This would make it easier for students to find organizations to work with, rather than having to source them independently. That said, this collaboration should remain optional, as some students may have already arranged partnerships before starting the program.

This insight could also be valuable for the Doctoral Global Risk Program, ensuring a similar approach to enhancing student support and project opportunities.

It's a wonderful program

・卒業後の出口として、現実的には大学やシンクタンク等の研究職が最も多くなると思います。ヨーロッパではニーズが高まっている分野なので国際機関やNGO等の受け皿は拡大傾向にあると思います。・政策立案能力を伸ばすことを中心に据えている以上、行政経験者の指導者は不可欠になると思います。博士学生を指導できて、しかもプラネタリーヘルスに通じている行政経験者は国内では非常に限られているので、海外からも人材を募ることが必要と考えます。

Maybe the name of the program should include the key words "policy" "health policy" or "diplomacy" so the degree appears more relevant to future employers.

高校生のときからこのような研究院や課程があることを知ることによって将来の可能性が広がる気がした。

とても期待しています。

非常に難しい問題を取り扱っていくという印象を受けました。現代はSNSの発達により情報の取捨選択の必要性が増していますが、ぜひ世界規模のさまざまな問題について検討し、正しい情報・知見を積極的に発信していったほしいなと思いました。

現在の縦割りの行政や制度を横断的に出来るような(広域的な)仕組み作りあげて行けるのではないかと感じました。

Excellent program that can address the urgent energy crisis, conflicts, and injustice.

It is important to nurture experts who can make risk-informed decisions that ensure available resources are well invested.

民間出身や行政機関出身者などの教員配置と、受け入れを想定する企業や行政機関があれば事前にどのような大学院にすれば連携できるかヒアリングをしていくと良いと思います。

長崎大学のプラネタリーヘルスへの取組みは素晴らしいと思います。

その中のグローバルリスクの取組みにも期待してます。

グローバルリスクに関する取組に期待します。

様々な地球環境について研究できそうなのでとても良いと思った。

研究科内で経済的な支援があると、学生が博士後期課程に進みやすく、各研究室の研究も進展すると思います。

| |
|--|
| The program will add value to programs bothering on Health, Social Science and Humanities Nagasaki University. |
| 急務な課程だと思います。 |
| 地球的な危機を踏まえた教育のあり方についてのコースを設けて頂ければ、と希望いたします。 |
| 良い人材が集まって発展されるよう祈念申し上げます。 |
| I am impressed by the interdisciplinary nature of the new Global Risks doctoral program. It is a very timely initiative. |
| 公共善エコノミーの考え方を是非取り入れて、包括的な視野を持つ政策立案能力を持った人材育成に大きな期待を寄せています。 |

14. 長崎大学にご意見、ご要望がありましたら、お聞かせください。例：〇〇に関する講義やセミナーを開催してほしい。〇〇のような人材を育成してほしい。〇〇の研究を推進してほしい 等

66
応答

最新の回答

"来年も今回のシンポジウムのような取り組みを期待します。クリスティアン フェルバーのお話を..."
...

ニーズ調査（団体・企業）

長崎大学では、令和8年10月にグローバルリスクに関する政策立案能力のある専門家、国際社会におけるリーダーの育成に資する教育プログラムを開設することとしております。ついては、当該プログラムの構築にあたり、学生、教育関係者及び一般のみなさまに関心度及び人材育成への期待・要望等についてアンケートを実施します。お忙しいところ申し訳ございませんが、以下URLに掲載の説明文を一読の上、アンケートにご協力ください。

【プログラムの設置の趣旨や概要について】

https://www.planetaryhealth.nagasaki-u.ac.jp/iiph_wp/wp-content/uploads/2024/11/5a9ac7041a5dbec4a514956312c5defc.pdf

* 必須

1. 貴社の主要な業種について、お答えください。*

- ☐ 農業、林業
- ☐ 漁業
- ☐ 鉱業、採石業、砂利採取業
- ☐ 建設業
- ☐ 製造業
- ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 情報通信業
- ☐ 運輸業、郵便業
- ☐ 卸売業、小売業
- ☐ 金融業、保険業
- ☐ 不動産業、物品賃貸業
- ☐ 学術研究、広告業
- ☐ 宿泊業、飲食サービス業
- ☐ 教育、学習支援業
- ☐ 医療、福祉
- ☐ サービス業（他に分類されないもの）

2. 差し支えなければ、企業名・団体名をお答えください。

3. 長崎大学において新たに設置を検討している、グローバルリスク研究院博士後期課程について、どのような印象を受けられましたか。*

- ☐ 修了後は実社会で役立ちそう
- ☐ 将来性がありそう
- ☐ 時代にマッチしていると感じる
- ☐ 長崎大学らしい大学院研究科である
- ☐ その他

学生の採用意向について

4. 本研究院博士後期課程を修了した学生の採用意向について、お聞かせください。

- ☐ 是非採用したい
- ☐ 採用したい
- ☐ 検討したい
- ☐ 検討しない
- ☐ その他

5. 採用にあたり、学生に求める能力で、重視する項目を次の中から3つお選びください。*

3個のオプションを選択してください。

- ☐ 行動力
- ☐ リーダーシップ
- ☐ 協調性・コミュニケーション能力
- ☐ 企画・立案力
- ☐ プレゼンテーション能力
- ☐ 論理展開力
- ☐ 課題発見・解決能力
- ☐ 専門に係る高度な知識・技能
- ☐ 語学力
- ☐ その他

社員や職員の修学について

6. 社員や職員に、本研究院博士後期課程での修学を推奨しますか。*


- ☐ 強く推奨する
- ☐ 推奨する
- ☐ 個人の裁量としている
- ☐ 強くは推奨しない
- ☐ 推奨しない

7. 条件が合えば推奨する場合、具体的にお聞かせください。例：奨学金の充実。在職しながら、修了可能（オンライン対応）。 等

8. 本研究院博士後期課程について、ご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせください。

9. 長崎大学にご意見、ご要望がありましたら、お聞かせください。例：〇〇に関する講義やセミナーを開催してほしい。〇〇のような人材を育成してほしい。〇〇の研究を推進してほしい 等

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

2025 年 1 月 30 日

「グローバルリスク研究院」団体・企業ニーズ調査結果

(出口のニーズ調査)

■ 調査の概要

1) 調査（集計）の対象

- ・プラネタリーヘルスに関する取組みに関心がある団体・企業
- ・本学と連携している国内外の各種団体・企業

2) 調査の方法

上記対象者に、ウェブ上で説明資料の提示を行った上で、アンケートへの回答を依頼した。またアンケートはウェブ上で実施した。

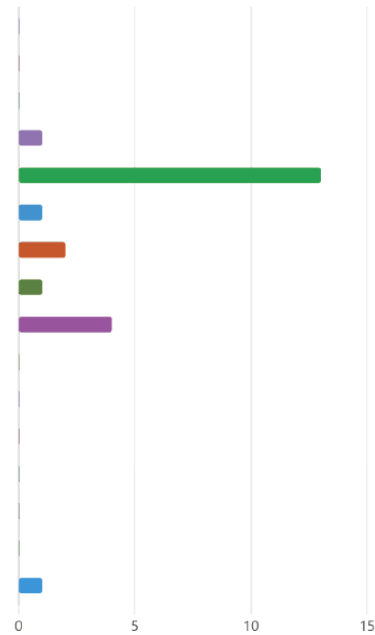
3) 回答数

23 社

4) 調査期間

令和 6 年 11 月 29 日（金）～令和 6 年 12 月 31 日（火）

1. 貴社の主要な業種について、お答えください。

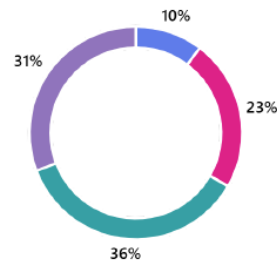
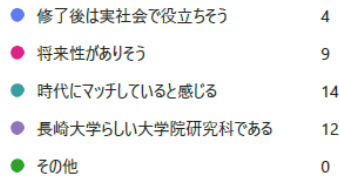


2. 差し支えなければ、企業名・団体名をお答えください。

19
応答

| 回答ピックアップ |
|------------------------|
| NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 |
| 九州電力（株）長崎支店 |
| KISCO 株式会社 |

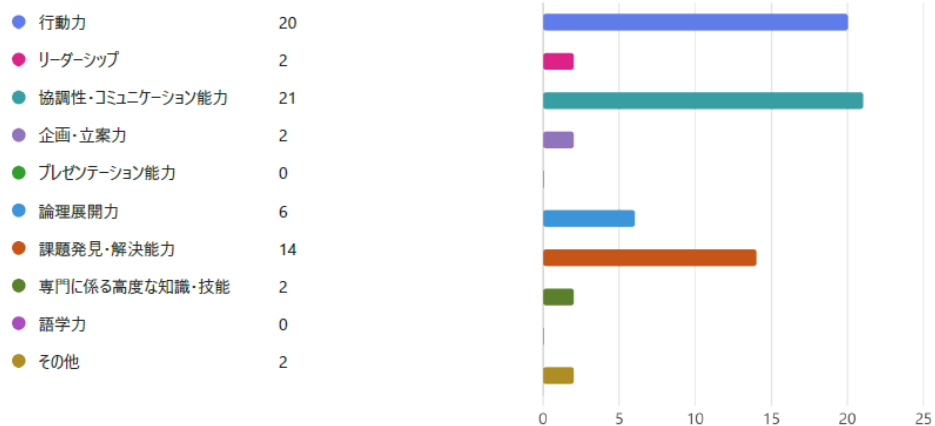
3. 長崎大学において新たに設置を検討している、グローバルリスク研究院博士後期課程について、どのような印象を受けられましたか。



4. 本研究院博士後期課程を修了した学生の採用意向について、お聞かせください。



5. 採用にあたり、学生に求める能力で、重視する項目を次の中から3つお選びください。



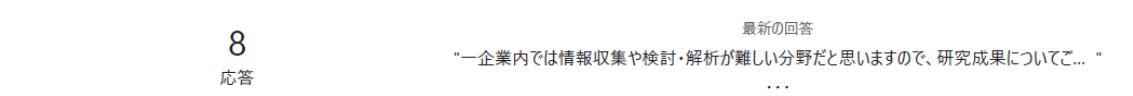
6. 社員や職員に、本研究院博士後期課程での修学を推奨しますか。



7. 条件が合えば推奨する場合、具体的にお聞かせください。例：奨学金の充実。在職しながら、修了可能（オンライン対応）。 等



8. 本研究院博士後期課程について、ご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせください。



| |
|--|
| グローバルの視点をもった政策立案にかかわる人材の育成にとっては大変期待を持てる課程であると感じました。 |
| 学んだ知識技術をどう企業実務で活かしていくかを伺いたい。 |
| 当社は化学品を取り扱う専門商社の為、国内だけでなく、グローバルに働く人材も多く輩出しております。 貴校の今回の取り組みについては、国内だけでなく、国外に対しても高い視座を得られるのではないかと感じております。是非、その様な学生様を当社は積極的に採用していきたいと考えております。 |
| 長崎大の特徴を生かした、独自性の高い課程だと思います。学生たちに会ってみたいと感じます |
| 国境を越えた紛争や環境問題が深刻化する中、それらに対処する重要な要素が盛り込まれていると感じました。 |
| 現代社会において重要な問題となっており、業界ごとの詳細なリスク分析が可能となればビジネスにおいて広く役立たせることができるのではないかと考えます。 |
| 長崎大学の特色を生かした研究院で、学術の世界では意義深いと思います。 当社では研究者の見識を活かす領域は見出せませんでしたが、修了者が長崎を拠点に活躍出来る機会が創出出来れば、尚良いと思います。 |
| 一企業内では情報収集や検討・解析が難しい分野だと思いますので、研究成果についてご共有頂けましたら幸いです。 |

9. 長崎大学にご意見、ご要望がありましたら、お聞かせください。例：〇〇に関する講義やセミナーを開催してほしい。〇〇のような人材を育成してほしい。〇〇の研究を推進してほしい 等

4
応答

最新の回答
...

業界説明会等の学生様と交流を持てる機会を設けていただけると嬉しいです。

県外への人口流出による県内の働き手不足対策として、長崎に根付いた人材を育成してほしいです。弊社は地場企業として、貴学と連携した取組みが出来ればとも思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

卒業後も長崎に対する想いを強く持ち、県外に就職したとしても将来長崎に対して貢献する意欲を持った人材を育成してほしい。

2025 年 1 月 8 日

国立大学長崎大学長

永 安 武 殿

日比谷 潤子

グローバルリスク研究院の設置に関する要望書

長崎大学大学院グローバルリスク研究院（博士後期課程）の設置をできる限り早期に実現していただきますよう、次のとおり要望いたします。

長崎大学と私が学長を務めていた国際基督教大学（以下、ICU）は、2019 年 3 月に「包括的連携協力に関する協定」を締結しました。「恒久平和の確立に資することを目的として」いる ICU と貴学とは大学のミッションに共通点も多く、教育、研究、地域貢献、産学連携、国際交流等について相互に協力してきたところです。

締結から 5 年余、現下の状況をみれば、気候変動、未知の感染症の拡大、核兵器の使用、貧困と格差、宗教的文化的対立等々、世界は多くの脅威にさらされ、混迷を深めています。

長年にわたり熱帯医学・感染症・放射線医療科学分野で卓越した成果を挙げ、先端創薬・総合海洋研究・核兵器廃絶研究等を推進してこられた貴学は、これらを基盤として地球が直面する様々な問題を解決し、人と地球環境の健康（プラネタリーヘルス）の実現に貢献するために、既存の学問分野の壁を超え、多様な教育研究分野の融合により知の連鎖を誘発する“新しい知の創出”を目指されています。また、2024 年 6 月に新たにグローバルリスク研究センター（Research Center for Global Risk : CGR）を設置し、地球規模の巨大なリスクの相互連関性と、一つのリスクが他のリスクの引き金となる相互連鎖性を主な対象とする研究を推進されています。

このたび上述の CGR での研究と並行して新設を検討されているグローバルリスク研究院は、地球規模のリスクに対応するため、国際社会において高度な政策立案能力を有する実務家、高度な専門性を有するリーダーの育成を目指されています。世界の現状に鑑みるに、このような博士後期課程の設置は急務です。当該研究院において、地球規模のリスク回避を志す実務家に更なる学びの機会が早急に提供されることを強く要望するとともに、多様なニーズに応じて国際社会で貢献できる人材が次々と輩出されますよう、大いに期待しております。

特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

日比谷 潤子

令和7年1月10日

国立大学長崎大学長
永 安 武 殿国際連合事務次長・軍縮担当上級代表
中満 泉

グローバルリスク研究院の設置に関する要望書

長崎大学大学院グローバルリスク研究院（Interdisciplinary Graduate School of Global Risk：博士後期課程）の設置をご準備中とのこと、誠に時機にかなった構想と拝察申し上げます。本研究の設置をできる限り早期に実現していただきますよう、希望いたします。

国連は、貴学が重視する「プラネタリーヘルス」についてさまざまな貢献を続けており、その一環でグローバルリスクへの対応にも積極的に取り組んでおります。国連事務総長の指示のもとで現在、関連の事務当局を中心に Global Risk Report をとりまとめているところです。この報告書の目的の一つは、グローバルリスクに対する認識や国際社会の対応準備の現状を把握し評価することにあります。作成にあたっては、グローバルリスクの特定やリスクへの理解、将来予測などに精通したアカデミズムのパートナーの協力も得ております。グローバルリスクへ実際に対応していく段階でもアカデミズムの知見は不可欠であり、貴学からの貢献も大いに期待します。

貴学では、長年にわたる熱帯医学・感染症・放射線医療科学分野における卓越した実績を誇り、先端創薬・総合海洋研究を推進されています。被爆地の大学として核兵器廃絶研究に力を入れておられることも国際的に知られております。これらを基盤に、地球上に起こる様々な問題を解決し、プラネタリーヘルスの実現に貢献するために、既存の学問の枠組みを超え、多様な教育研究分野が融合し、知の連鎖を誘発する“新しい知の創出”を目指されています。また、2024年6月に新たにグローバルリスク研究センター（Research Center for Global Risk: CGR）を設置し、地球規模の巨大なリスクの相互連関性と、一つのリスクが他のリスクの引き金となる相互連鎖性を主な対象として研究を推進されています。

このたび上述の CGR での研究と並行して新設を検討されているグローバルリスク研究院では、様々なグローバルリスクに対応するために、国際社会において高度な政策立案能力を有する実務家、高度な専門性を有するリーダーの育成を目指されていると理解しています。このような取り組みは、私も大いに賛同いたします。

グローバルリスクに関連する実務家に対し、当該研究院において更なる学びの機会を提供されることを強く要望するとともに、多様なニーズに応じて国際社会で貢献できる人材が次々と輩出されますよう、大いに期待しております。



UHH · ZNF · INFABRI · Bogenallee 11 · 20144 Hamburg

Takeshi Nagayasu

President

Nagasaki University

1-14 Bunkyo-machi

Nagasaki 852-8521

13.01.2025

Dr. Gunnar Jeremias
Head

Carl Friedrich von Weizsäcker-Centre for Science
and Peace Research

Interdisciplinary Research Group for the Analy-
sis of Biological Risks (INFABRI)

Bogenallee 11
20144 Hamburg

Tel. +49 40 42838-4383

Fax +49 40 42838-7280

gunnar.jeremias@uni-hamburg.de

<https://www.znf.uni-hamburg.de/forschung/infabri.html>

Support for the Establishment of the Global Risk Research Institute

Dear President Nagayasu,

I am writing to express my strong support for the establishment of the Doctoral Program at Nagasaki University Interfaculty Graduate School of Global Risk (Interdisciplinary Graduate Program).

As an individual committed to addressing global risks and having a specific focus on chemical and biological arms control, I deeply value the initiatives spearheaded by Nagasaki University, particularly those related to Planetary Health.

Today, the world faces numerous interconnected challenges, including climate change, environmental pollution, infectious diseases, radiation-related disasters, nuclear issues, terrorism, population dynamics, food security, social disparity, gender inequality, global militarization, dual-use risks in Science & Technology, neo-imperialist tendencies in a number of countries, and religious and cultural conflicts.

Nagasaki University's longstanding excellence in areas such as tropical medicine, infectious diseases, and radiation medicine, combined with its focus on advanced drug discovery, integrated oceanographic research, and nuclear weapons abolition, uniquely positions it as a leader in addressing these global challenges. The newly established Research Center for Global Risk (CGR) in June 2024 represents a significant step forward in promoting research into the interconnectivity of global risks and their cascading impacts.

The proposed Interfaculty Graduate School of Global Risk aligns seamlessly with these efforts, aiming to cultivate highly skilled professionals and leaders capable of crafting innovative policy solutions to address global risks. This initiative has the potential to contribute meaningfully to the international community and advance humanity's collective resilience to shared challenges.

I believe that fostering educational opportunities and cultivating a new generation of leaders in this critical field is vital. Therefore, I extend my enthusiastic support for the establishment of this program and look forward to its positive impact on addressing global risks and promoting Planetary Health.

Yours sincerely,



Dr. Gunnar Jeremias

Takeshi Nagayasu
President
Nagasaki University
1-14 Bunkyo-machi
Nagasaki 852-8521
Japan

10th January 2025

Support for the Establishment of the Global Risk Research Institute

Dear President Nagayasu,

I am writing to express our strong support for the establishment of the Doctoral Program at Nagasaki University Interdisciplinary Graduate School of Global Risk.

As an organisation committed to addressing global risks, we deeply value the initiatives spearheaded by Nagasaki University, particularly those related to Planetary Health.

Today, the world faces numerous interconnected challenges, including climate change, environmental pollution, infectious diseases, radiation-related disasters, nuclear issues, terrorism, population dynamics, food security, social disparity, gender inequality, and religious and cultural conflicts.

Nagasaki University's longstanding excellence in areas such as tropical medicine, infectious diseases, and radiation medicine, combined with its focus on advanced drug discovery, integrated oceanographic research, and nuclear weapons abolition, uniquely positions it as a leader in addressing these global challenges. The newly established Research Center for Global Risk (CGR) in June 2024 represents a significant step forward in promoting research into the interconnectivity of global risks and their cascading impacts.

The proposed Interdisciplinary Graduate School of Global Risk aligns seamlessly with these efforts, aiming to cultivate highly skilled professionals and leaders capable of crafting innovative policy solutions to address global risks. This initiative has the potential to contribute meaningfully to the international community and advance humanity's collective resilience to shared challenges.

We/ believe that fostering educational opportunities and cultivating a new generation of leaders in this critical field is vital. Therefore, We/I extend our/my enthusiastic support for the establishment of this program and look forward to its positive impact on addressing global risks and promoting Planetary Health.

Yours sincerely



Alan Owen MBA FBCS CITP FLPI

30 December, 2024

Takeshi Nagayasu
President
Nagasaki University
1-14 Bunkyo-machi
Nagasaki 852-8521
Japan

SUBJECT: **Request for the Establishment of the Interdisciplinary Graduate School of Global Risk**

Dear President Nagayasu,

I am writing to support an express establishment of the Doctoral Program at Nagasaki University Interdisciplinary Graduate School of Global Risk.

Since January 2020, I have served as the Chief Executive Officer of the Council on Strategic Risks (CSR), a think tank based in Washington, DC; and I was a founding Board Member to CSR beginning in 2016. Prior to this, I served in the US Government focusing on nuclear, biological, and other global risk issues, including close collaboration with the Government of Japan on all-hazards crisis management. In this work it became increasingly clear that the greatest risks to all nations—such as nuclear threats, pandemics, and dramatic climate and ecological changes—were reshaping the world in profound ways. Further, security in the 21st Century would require recognition of the ways in which these types of issues are intersecting and affecting one another. Along with more than a dozen security experts, we helped to launch CSR with the belief that the world needed interdisciplinary centers focused in this manner.

As such, I have been very happy to see the development of Nagasaki University's Planetary Health initiatives. I believe the University is already becoming renowned as a global center of excellence in hosting leaders and programming oriented to the world's greatest risks, such as climate change, environmental pollution, infectious diseases, radiation disasters, nuclear issues, food problems, and more. I can attest from CSR's experience that we learn significantly from working across these and other issues in a single entity with a similar vision to the University's, and we have launched several successful initiatives and increased CSR's policy impact based on our experts working in an interdisciplinary manner together.

—

Council on Strategic Risks

1025 Connecticut Ave. NW, Ste 1000
Washington, DC 20036

During my most recent visit to Nagasaki University in November, it became even more clear to me that your University's long history and excellence in many relevant fields is a unique asset for the world. This includes the longstanding work on tropical medicine, infectious diseases, and the promotion of advanced drug discovery; integrated oceanographic research; decades-long leadership regarding radiation effects on people and the environment, radiation medicine, and its linkage to nuclear weapons abolition research; and much more. For these reasons, I am excited that your University aims to create new knowledge systems that go beyond existing academic frameworks, incorporate various education and research fields, and lead to a ripple effect of knowledge creation in order to solve the planet's various issues. This will contribute greatly to the health of humanity and the world, or Planetary Health. The Research Center for Global Risk (CGR) that was newly established in summer 2024 is advancing this, promoting research focusing on the interconnectedness of global risks and how they can trigger cascading effects is another important development.

This Interdisciplinary Graduate School of Global Risk, which is being considered for establishment in parallel with the above-mentioned research at the CGR, aims to foster professionals with advanced policy-making skills and highly specialized leaders in the international community who can address various global risks. I strongly support these efforts, and I know they will be welcomed by many other likeminded experts and organizations around the world. As the common language is English, not Japanese, in this Graduate School, I am confident that this would enhance global knowledge and ideas, in addition to doing so in Japan.

I strongly request that this Graduate School provide further learning opportunities for professionals in the global risk field as soon as possible. I also express my high expectations that the Graduate School will produce leaders who can contribute to the international community in response to diverse needs in today's incredibly dynamic security environment.

I am deeply grateful for your special consideration.

Sincerely,

Christine Parthemore

Christine Parthemore

Chief Executive Officer and
Director, Janne E. Nolan Center on Strategic Weapons
The Council on Strategic Risks
+1 202-631-8505
cparthemore@csrisk.org

—

Council on Strategic Risks

councilonstrategicrisks.org



22 December 2024

Takeshi Nagayasu
President
Nagasaki University
1-14 Bunkyo-machi
Nagasaki 852-8521
Japan

Request for the Establishment of the Interdisciplinary Graduate School of Global Risk

Dear President Nagayasu

It was a pleasure to meet you for a second time earlier this month and to sign with you the Memorandum of Understanding to establish a partnership between your university and the Stockholm International Peace Research Institute (SIPRI). I believe the partnership has great prospects and your faculty members and SIPRI researchers are starting to work out practical modes of cooperation.

I write now on a different matter, to emphasize the importance and urgency of establishing the Doctoral Program at Nagasaki University Interdisciplinary Graduate School of Global Risk.

As you know, SIPRI takes a keen interest in global risk and is engaged in policy-oriented research on many of its dimensions. Some of our work focuses on the field of armaments, especially nuclear but also conventional, chemical and biological. Our work also includes the impact of the military exploitation of advanced technologies such as artificial intelligence and, in the coming period, quantum technologies. We explore the ecological crisis and its impact upon nutrition, health, well-being, peace, conflict and security. In some of these areas, I expect that we shall work together with the Research Center for Global Risk and the Graduate School when it too is established.

Your university boasts a long history of excellence in the fields of tropical medicine, infectious diseases, and radiation medicine, and promotes advanced drug discovery, integrated oceanographic research, and nuclear weapons abolition research. The work your university has initiated on the theme of planetary health is path-breaking. There is no doubt that you are right to design programmes that aim to go beyond existing academic frameworks, so as to achieve a ripple effect of knowledge creation. In keeping

**STOCKHOLM INTERNATIONAL
PEACE RESEARCH INSTITUTE**

Signalistgatan 9
SE-169 72 Solna, Sweden

Internet: www.sipri.org

Dan Smith

Director

Telephone: +46 76 628 6100

Email: director@sipri.org



with this, the Research Center for Global Risk (CGR) was set up in June 2024, to promote research focusing on the interconnectedness of global risks and their triggers.

The establishment of the Interdisciplinary Graduate School of Global Risk is now under consideration. I fully support the intention to foster professionals with advanced policy-making skills and highly specialized leaders in the international community who can address various global risks. This is the appropriate complement to the research that will be undertaken at the CGR. To reiterate, at SIPRI we strongly support these efforts.

I therefore request that this Graduate School be established as soon as possible, so as to meet the urgent need of providing further learning opportunities for professionals in the global risk field. I am sure it will produce leaders who can contribute to the international community in response to diverse needs.

I hope that this request is well received and I look forward to hearing more about this excellent initiative.

Yours sincerely

A handwritten signature in blue ink that reads "Dan Smith".

Dan Smith
Director

IFSH Dr. Ulrich Kühn Beim Schlump 83 20144 Hamburg Germany

Takeshi Nagayasu
President
Nagasaki University
1-14 Bunkyōmachi
Nagasaki 852-8521
Japan

Dr. Ulrich Kühn
*Head, Arms Control and
Emerging Technologies*

Beim Schlump 83
20144 Hamburg
Germany
Phone +49 40 866077 41
E-Mail kuehn@ifsh.de

Hamburg, December 11, 2024

Request for the Establishment of the Interdisciplinary Graduate School of Global Risk

Dear President Nagayasu,

This is a request for the establishment of a Doctoral Program at Nagasaki University's Interdisciplinary Graduate School of Global Risk.

Since many years, I possess a strong interest in global risk. As a recent example, I co-lead a working group on arms control and emerging technologies within the Rethinking Deterrence network of Harvard University, which looked at global catastrophic risk in the nuclear weapons domain. I also collaborated with researchers from SIPRI and UNIDIR on an edited volume that looked at risk-mitigating strategies of states in the so-called third nuclear age. Another project of mine brought together researchers from the United States and Europe to collaborate on a special issue volume of the Journal for Strategic Studies, looking at the interlinkages between global risk and strategic stability issues between the US, China, and Russia.

Today, we face many global problems: climate change, environmental pollution, infectious diseases, radiation disasters, nuclear issues, population problems, food problems, disparity, gender issues, religious and cultural conflicts, and more.

Your University boasts a long history of excellence in the fields of tropical medicine, infectious diseases, and radiation medicine, and promotes advanced drug discovery,

integrated oceanographic research, and nuclear weapons abolition research. In June 2024, the Research Center for Global Risk (CGR) was newly established to promote research focusing on the interconnectedness of global risks and the interconnectedness of risks that trigger other risks.

The new Interdisciplinary Graduate School of Global Risk, which is being considered for establishment in parallel with the above-mentioned research at the CGR, aims to foster professionals with advanced policy-making skills and highly specialized leaders in the international community who can address various global risks. I strongly support these efforts. The common language will be English, not Japanese in this Graduate School.

I strongly request that this Graduate School provides further learning opportunities for professionals in the global risk field as soon as possible. I also express my expectation that the Graduate School will produce leaders who can contribute to the international community in response to diverse needs.

I kindly ask for your special consideration.

With best regards,

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'U. Kühn', with a stylized flourish at the end.

Dr. Ulrich Kühn

Geneva, 9 January 2025

RE: Establishment of the Interdisciplinary Graduate School of Global Risk at Nagasaki University

Dear President Nagayasu,

I am writing to express my strong support for the idea of establishing an Interdisciplinary Graduate School of Global Risk at Nagasaki University.

The United Nations Institute for Disarmament Research (UNIDIR) conducts independent research on pressing international challenges relating to disarmament, arms control and international security, which in turn implies a strong and longstanding interest in global risks. In light of today's convergence of a multitude of complex crises, the challenge of addressing global risk has become particularly timely and urgent. Generating innovative solutions and training the next generation of students and experts to respond to key global challenges has never been more important. That is why we here at UNIDIR share many of the concerns of Nagasaki University's Planetary Health initiatives and work on numerous issues of mutual interest. These include measures to reduce the risk of nuclear weapons use, novel approaches to transparency and verification in nuclear security, and reforms to nuclear disarmament and strategic arms control regimes. These kinds of measures represent important steps on the path towards a more secure, more peaceful world.

Nagasaki University boasts a long history of excellence in the fields of tropical medicine, infectious diseases and radiation medicine, as well as promoting advanced drug discovery, integrated oceanographic research and important work on the abolition of nuclear weapons. We at UNIDIR have been delighted to be afforded the honour of collaborating with eminent Nagasaki University scholars at the Research Center for Nuclear Weapons Abolition, who are widely recognized as leaders in their field.

The new Interdisciplinary Graduate School of Global Risk would be particularly well placed to address the interconnectedness of many of today's global challenges. It would also support future generations of students, scholars and policymakers in the development of the holistic, cross-disciplinary responses that the world so urgently needs in our troubled century. Indeed, the aims of the School would very much align with the innovative, forward-looking approaches agreed on during the recent United Nations Summit for the Future (2024), which could in time help to unlock many new opportunities with significant untapped potential. In this regard, the School's PhD programme could become a particularly valuable and impactful talent-building pipeline. By offering programmes in English, the School will also become even more attractive to scholars from around the world as an important research and teaching hub. This in turn will open up further opportunities for the Graduate School to cooperate internationally, and we at UNIDIR certainly look forward to the day when collaboration and engagement between our Institute and the School can become a reality.

Against this backdrop and in light of the above, I am firmly convinced that the Interdisciplinary Graduate School of Global Risk at Nagasaki University would make a significant contribution to Japan, to Asia and to the wider world. I emphatically support this proposal.

I thank you for your kind consideration and would be delighted to provide further thoughts on specific aspects of the Graduate School should this be deemed helpful.

Yours sincerely,



Professor Takeshi Nagayasu

Dr Robin Geiss

President, Nagasaki University

Director, United Nations Institute
for Disarmament Research (UNIDIR)

January 7, 2025

Takeshi Nagayasu
President
Nagasaki University
1-14 Bunkyo-machi
Nagasaki 852-8521
Japan



CARNEGIE
ENDOWMENT FOR
INTERNATIONAL PEACE

1779 Massachusetts Avenue, NW

Washington, DC 20036

P +1 202 483 7600 F +1 202 483 1840

CarnegieEndowment.org

Re: Establishment of the Interdisciplinary Graduate School of Global Risk

Dear President Nagayasu,

I write to urge the University and the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) to establish an Interdisciplinary Graduate School of Global Risk at Nagasaki University. Leading nations of the world must step forward and work together to address 21st century risks that have been created at global scale and can only be managed through global cooperation. Climate change is one of the most obvious – and one whose effects will be dramatic for an island nation like Japan. Infectious diseases (such as Covid) are another. Health of the oceans is still another. My own career has focused primarily on risks of nuclear war and weapons proliferation: the dynamics that cause these risks are global and the effects of nuclear war would be global too.

Nagasaki University has an admirable history of excellence in many fields of medicine with global dimensions and, of course, in research on nuclear weapons abolition. I have had the honor and pleasure of working with your scholars in the nuclear abolition center who are recognized around the world as leaders in the field. They combine academic excellence with a deep commitment to create policy results in the real world.

An interdisciplinary graduate school that brings together scholars, students, and policy practitioners to address interconnected global risks would be beneficial to Japanese participants – students, scholars, policymakers, journalists, etc. – and to the rest of the world. For, I believe the world needs nations like Japan to exert more prominent leadership -- nations that respect academic freedom and freedom of speech and do not pose military threats to others. Creating an international, interdisciplinary graduate school with a Ph.D program would be an important contribution.

The world needs young professionals with state-of-the-art policy-making skills and education who can address the range of global risks. Insofar as English remains a common language, having the program taught in English will make it still more attractive for scholars (like me) to participate in research and teaching.

I would be happy to provide further thoughts if this would be helpful to you. Thank you for your careful consideration.

Respectfully,
George Perkovich



Japan Chair for a World Without Nuclear Weapons
Vice President for Studies

令和6年12月12日

国立大学長崎大学長
永 安 武 殿

総合地球環境学研究所・副所長
フューチャー・アース日本委員会・共同議長
谷口真人

グローバルリスク研究院の設置に関する要望書

長崎大学大学院グローバルリスク研究院（博士後期課程）の設置をできる限り早期に実現していただきますよう、次のとおり要望いたします。

総合地球環境学研究所・副所長及びフューチャー・アース日本委員会・共同議長を務める谷口は、グローバルリスクに関して強い関心を持っており、総合地球環境学研究所及びフューチャー・アース日本委員会では、プラネタリーヘルスやグローバルリスクに関する学際研究及びトランスディスプリナリー研究に取り組んでいます。

現在、地球上では、気候変動、環境汚染、感染症、放射線被害、核問題、人口問題、食料問題、格差、ジェンダー、宗教や文化の対立等多くの地球規模の問題が起こっています。

貴学では、長年にわたる熱帯医学・感染症・放射線医療科学分野における卓越した実績を誇り、先端創薬・総合海洋研究・核兵器廃絶研究等を推進されています。これらを基盤に、地球上に起こる様々な問題を解決し、人と地球環境の健康（プラネタリーヘルス）の実現に貢献するために、既存の学問の枠組みを超え、多様な教育研究分野が融合し、知の連鎖を誘発する“新しい知の創出”を目指されています。また、2024年6月に新たにグローバルリスク研究センター（Research Center for Global Risk：CGR）を設置し、地球規模の巨大なリスクの相互関連性と、一つのリスクが他のリスクの引き金となる相互連鎖性を主な対象として研究を推進されています。

このたび上述のCGRでの研究と並行して新設を検討されているグローバルリスク研究院は、様々な地球規模のリスクに対応するために、国際社会において高度な政策立案能力を有する実務家、高度な専門性を有するリーダーの育成を目指されています。このような取組みについて、私としても、大いに賛同いたします。

グローバルリスクに関連する実務家に対し、当該研究院において更なる学びの機会を早急に提供されることを強く要望するとともに、多様なニーズに応じて国際社会で貢献できる人材が次々と輩出されますよう、大いに期待しております。

特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。



European Centre for Disaster Medicine CEMEC



Prot. P/05/25

San Marino, 27/03/2024
To Prof. Takeshi Nagayasu
President Nagasaki University

Support for the Establishment of the Global Risk Research Institute

Dear President Nagayasu,

I am writing to express our strong support for the establishment of the Doctoral Program at Nagasaki University Interdisciplinary Graduate School of Global Risk.

As a specialized Centre of the Council of Europe committed to addressing global risks, we deeply value the initiatives spearheaded by Nagasaki University, particularly those related to Planetary Health.

Today, the world faces numerous interconnected challenges, including climate change, environmental pollution, infectious diseases, radiation-related disasters, nuclear issues, terrorism, population dynamics, food security, social disparity, gender inequality, and religious and cultural conflicts.

Nagasaki University's longstanding excellence in areas such as tropical medicine, infectious diseases, and radiation medicine, combined with its focus on advanced drug discovery, integrated oceanographic research, and nuclear weapons abolition, uniquely positions it as a leader in addressing these global challenges. The newly established Research Centre for Global Risk (CGR) in June 2024 represents a significant step forward in promoting research into the interconnectivity of global risks and their cascading impacts.

The proposed Interdisciplinary Graduate School of Global Risk aligns seamlessly with these efforts, aiming to cultivate highly skilled professionals and leaders capable of crafting innovative policy solutions to address global risks. This initiative has the potential to contribute meaningfully to the international community and advance humanity's collective resilience to shared challenges.

We believe that fostering educational opportunities and cultivating a new generation of leaders in this critical field is vital. Therefore, we extend our enthusiastic support for the establishment of this program and look forward to its positive impact on addressing global risks and promoting Planetary Health.

Yours sincerely,



Prof. Roberto Mugavero
CEMEC President

令和6年12月25日

国立大学長崎大学長
永 安 武 殿

東京電力ホールディングス株式会社
福島復興本社代表
秋 本 展 秀



グローバルリスク研究院の設置に関する要望書

長崎大学大学院グローバルリスク研究院（博士後期課程）の設置をできる限り早期に実現していただきますよう、次のとおり要望いたします。

東京電力ホールディングス株式会社福島復興本社は、福島県にある全ての事業所の復興関連業務を統括し、原子力事故で被災された方への賠償、除染、復興推進など行っています。そのため、地域や社会の目線にたったリスクコミュニケーションを推進し、グローバルリスクに関して強い関心を持っています。

現在、地球上では、気候変動、環境汚染、感染症、放射線被害、核問題、人口問題、食料問題、格差、ジェンダー、宗教や文化の対立等多くの地球規模の問題が起こっています。

貴学では、長年にわたる熱帯医学・感染症・放射線医療科学分野における卓越した実績を誇り、先端創薬・総合海洋研究・核兵器廃絶研究等を推進されています。これらを基盤に、地球上に起こる様々な問題を解決し、人と地球環境の健康（プラネタリーヘルス）の実現に貢献するために、既存の学問の枠組みを超え、多様な教育研究分野が融合し、知の連鎖を誘発する“新しい知の創出”を目指されています。また、2024年6月に新たにグローバルリスク研究センター（Research Center for Global Risk: CGR）を設置し、地球規模の巨大なリスクの相互関連性と、一つのリスクが他のリスクの引き金となる相互連鎖性を主な対象として研究を推進されています。

このたび上述の CGR での研究と並行して新設を検討されているグローバルリスク研究院は、様々な地球規模のリスクに対応するために、国際社会において高度な政策立案能力を有する実務家、高度な専門性を有するリーダーの育成を目指されています。このような取組みについて、東京電力ホールディングス株式会社福島復興本社としても、大いに賛同いたします。

グローバルリスクに関連する実務家に対し、当該研究院において更なる学びの機会を早急に提供されることを強く要望するとともに、多様なニーズに応じて国際社会で貢献できる人材が次々と輩出されますよう、大いに期待しております。

特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

Friday, January 17, 2025

To: Takeshi Nagayasu, President of Nagasaki University

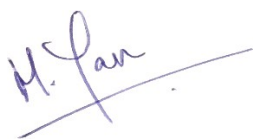
Support for the Establishment of the Global Risk Research Institute's Doctoral Program

Dear President Nagayasu,

I write in support of the establishment of the Doctoral Program at Nagasaki University Interdisciplinary Graduate School of Global Risk. This is an important program that contributes not only to the scholarly community, but its outcomes will enrich the world in contemporary challenging times. Of course, it will also heighten Nagasaki University's already respected profile.

Nagasaki University's longstanding excellence in areas such as tropical medicine, infectious diseases, and radiation medicine, combined with its focus on advanced drug discovery, integrated oceanographic research, and nuclear weapons abolition, uniquely positions it as a leader in addressing these global challenges. The newly established Research Center for Global Risk (CGR) in June 2024 is a significant step forward in promoting research into the interconnectivity of global risks and their cascading impacts.

Global Health and other emerging global risks are vital topics that many institutions have been studying ever since COVID-19 shut the world down for at least 2 years. This is seen at NUS and in Singapore at large. The proposed Interdisciplinary Graduate School of Global Risk aligns seamlessly with these efforts, aiming to cultivate highly skilled professionals and leaders capable of crafting innovative policy solutions to address global risks. Fostering educational opportunities and cultivating a new generation of leaders in this critical field is vital, especially since Global Health and other global risks are long-term research projects. The world community benefits from this program's positive impact on addressing global risks and promoting Global Health.



Tan Hsien-Li, PhD

Associate Professor, NUS Law School

Co-director, ASEAN Law and Policy Programme, Centre for International Law, NUS

lawtlt@nus.edu.sg

27th January, 2025

Takeshi Nagayasu
President
Nagasaki University
1-14 Bunkyo-machi
Nagasaki 852-8521
Japan

Dear President Nagayasu,

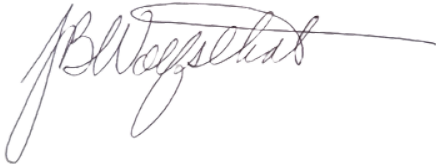
It is my honor to write to you today and support the creation of an interdisciplinary doctoral program at Nagasaki University on Global Risk. As a former senior US official and as a global actor for almost 40 years, it is clear that we live today on the precipice of global change. That instability will require experts to be able to think across a range of issues with a discipline and insight that can only be enhanced through such a program. Knowing the commitment of Nagasaki University to global peace and security and to improving the human condition, it would seem not only natural but necessary that the University take this step at this time.

I lead the Global Risk Program at the Federation of American Scientists, an organization founded by scientists who invented the atomic bombs used against Hiroshima and Nagasaki. These scientists and technical experts were determined to ensure that science had a voice in helping develop and implement sound policy at the national and global level. This is a clear example of the importance FAS has placed on interdisciplinary work from its inception. In my 18 months at FAS, but also in my work at the White House where I worked under President Obama and in my time at the US Department of Energy, it is clear to me that the world will only successfully manage the multiple overlapping challenges we face through an interdisciplinary approach.

At the same time, from an American perspective, it is more critical now than ever that my country and its closest allies – including Japan – produce and nurture experts and academics who can think about complex issues in diverse and three-dimensional ways. Just as problems today require diverse approaches, the United States is no longer able to address global issues alone and must rely more and more on experts and officials from our partner countries to help develop, drive and implement new approaches to thorny problems.

Not only would we at FAS welcome the creation of this program, but we would hope to benefit and work with its team to better understand and address global challenges. We fully support the creation of this effort and hope that our support will be received enthusiastically to enable this idea to reach fruition.

Sincerely,

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Jon B. Wolfsthal', with a long horizontal flourish extending to the right.

Jon B. Wolfsthal
Director of Global Risk
Federation of American Scientists